

◆ 広がり空間住宅

松村 泰徳



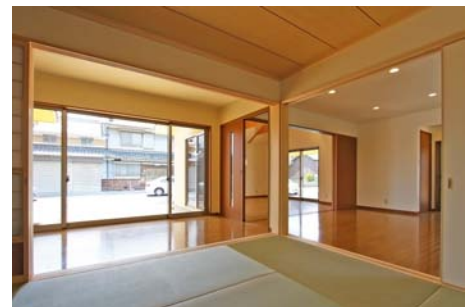
今回は歴史文化の豊かな斑鳩町で完成させた住宅（以下、「龍田の家」）を紹介したいと思います。法隆寺が近くに位置するロケーションで、大阪方面からの来訪者の玄関口ともいえる竜田大橋（大橋南側、竜田川のほとりは古今集や拾遺集に詠われた紅葉の名所でお薦めですよ！）を越えた街道沿いに、この住宅は建っています。近年の市街化により視界不良となった北側に位置する松尾山を想わせるような大らかなプロポーションの構えとしました。屋根は切妻和瓦葺きで外壁は左官仕上げでと普遍的な素材を用い、国宝・世界遺産群へといざなう街道をイメージさせるように心掛けました。

建築主みずから庭づくりを楽しまれており、現在は街道ににぎわいと色どりを添えています

内部1階は通常の台所・食堂・居間に間崩れさせた四つ間取りを、組み合わせることで多様な使い勝手を可能とし、保育園の園長をされている奥様の希望である、託児所スペースとしての将来対応に備えました。2階は寝室すべてに前室を設け、交通量の多い前面道路に配慮すると共に生活リズムの異なるご家族にも対応した間取りとしました。



「龍田の家」では引込み建具を使うことで完全に間仕切ったり、又は開放することで「広がり空間」をつくるのが可能となり、建具や壁・床など仕上りの素材は昔と違えど「和の多様性」という意味では日本近世に発達をみせた農家住宅に近い構成を取り込めたと感じています。



現在、長期住宅化が盛んに取り組まれています、その方法として耐久性の確保は当然の事として、維持管理性や省エネルギー性などの物理的性能を高めることに目を奪われがちですが、むしろ幾世代にわたっても暮らしの変化に追随する“可変的性能”を持たせることで建築の長寿命化を図ることが大切だと考えています。

「住みいるカフェ」

～カフェのマスターとお客さんの様な関係で、住みづくりについて語り合いたいと考えています～

－ 新婚旅行は命懸け!! －

辻 祐司

ついに我が家にも羽アリが発生してしまいました。5月の連休の最終日、急に暑くなった土曜日の事です。夜、疲れて帰って来た私に家内が云います。「羽アリがすごく出て、退治したけど気持ち悪いから何とかして！」聞いてみるとその行進は玄関から始まり、洗面所を經由して、風呂場まで続いていたらしい。風呂場の床では60cm大の塊となっていました。また、洗面所の壁にも幾つかの穴があり、そこに沢山タム口していたらしい。死んだ羽アリを見てみると、黒かったのが黒蟻の羽アリだろうと安心していましたが、後日白蟻屋さんに来てもらって「ヤマト白蟻です」と云われてしまいました。この季節白蟻は黒くなるらしい。この季節の発生を「新婚飛行」と云うらしく成虫になった白蟻は世帯持ちとなって新居を見つける為に外に飛び出すらしい。その数、3%。仮に1000匹飛び出したとしたら、333万匹。(エー、そんなに我が家にいるのですかー!)でも、白蟻の新婚さんは必ず新居を見つけられると云う保証は無いらしくその殆どが死に絶えてしまうらしい。命懸けの新婚飛行ですね。みなさんもお気を付けください。

◆ 茅葺で暮らしませんか？

増田 健次

4月の初めに滋賀県の守山市を訪ねました。写真の茅葺の農家を見せてもらうためです。大阪から車に乗り1時間ほどで到着しました。所有者からのご相談で、生まれ育ったこの家を残念ながら手放したいとのこと。戦前までは、このような大きな家は代々長男が受け継いでいくというルールが社会全体にあったものです。しかし所有者もご高齢になり身体も弱くなる一方で、ここに帰って住むことを断念されたようです。

一般に不動産業者に依頼すると、すぐ古民家を壊して更地にして、土地を売ってしまうという事態になってしまいがちですが、大阪や京都から充分通勤できる守山市に茅葺の家が残っているのは貴重ですし、できれば古民家を好きな方に譲りたいのご希望です。

土地は約500坪ありますし、母屋、蔵、門屋、納屋があり、敷地内で畑をつくることもできます。自分で育てた野菜をおかずにして食事をする、友人たちを招いてユル～リとした時間を共に過ごす、晴れた朝は、散歩がてら琵琶湖畔から比叡山や湖西の山々を望みながら歩く、雨の午後は縁側で茶をすすりながら濡れた落ち葉を静かに見入る。そんな暮らしを想像してしまいます。

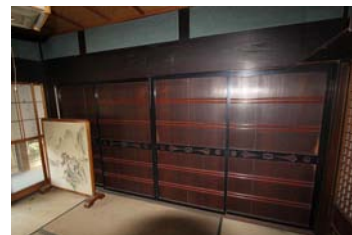
若い夫婦が大阪や京都の職場に近い狭い土地を購入して、新しい家を建てて生活をするという形は普通に考えられますが、古民家を改修をして、子供たちを琵琶湖畔のこの場所で大らかに育てていくというのも、またひとつの考え方だと想います。一方、元気な高齢者は街のマンションと守山のこの家を往復(参勤交代のように)して、都会暮らしと田舎暮らしの両方を楽しむというのはいかがですか？

ホームページアドレス：http://www.geocities.jp/archi_masuda/



追伸：古い家の調査には、アーキテクトキャラバンの井戸田が参加しました。

ゆったりとした敷地で暮らす農家の様子が想像でき、建築好きにも興味深いものでした。



◆ 編集後記

記事の編集を終え、後記を書いている今は5月下旬。外はそろそろ夏の雰囲気を感じられるようになってきました。毎年エアコンを殆ど使わない我が家では、バルコニーに「よしず」を掛けたり、「ゴーヤー」を植えたりしていますが、それでも暑い時は「ガマン」です。とは言いやはり暑いことには変わり無いので、あとひと工夫して何とかやり過ごせるよう思案中です。

今回は、いつもとは趣向を変えてメンバー以外の記事を発表しています。増田建築研究所の増田氏に寄稿頂きました。大阪市福島区内の堂島川近くのメリヤス会館というレトロな建物に事務所を構えられています。

みなさん、是非ご一読を!!

(橋爪 恒平)

◆ 編集メンバー

井戸田 精一 井戸田精一アトリエ

辻 祐司 辻 建築設計室

橋爪 恒平 atelier nest
-アトリエネスト-

松村 泰徳 松村泰徳建築事務所

山田 慎輔 山田慎輔建築設計室

「アーキテクトキャラバン」は、建築に携わる有志が集まり、その活動内容や住まいに関する情報などを、広く皆様へお届けできる場として、年4回季刊誌形式にて発行しております。

また、住まいの相談会、勉強会なども企画して参ります。ご意見・ご感想・相談等御座いましたら、右記事務局までご連絡頂きます様宜しくお願い致します。

編集・発行 [アーキテクトキャラバン]

大阪事務局/辻 建築設計室
大阪市中央区大手通1丁目3-7
日宝大手ビル4F
TEL : 06-6949-8090
FAX : 06-6949-8074
E-mail:tsujiken-tenma1007
@hop.ocn.ne.jp

奈良事務局/松村泰徳建築事務所
奈良県葛城市北花内261-5
松村ビル2F-WEST
TEL : 0745-69-5938
FAX : 0745-60-6524
E-mail:contact@ym-arc.jp
URL :http://www.ym-arc.jp

Copyright 2010-2011 Architect Caravan All rights reserved